

夢を何語で見ますか

「英語が自由に話せたらどんなにいいだろう。」こうあこがれる日本人は少なくはないでしょう。確かに海外旅行ばかりでなく、生産工場の海外移転にともなう海外勤務が身近なものとなりつつある今日では、英会話ができることが今まで以上に求められているかも知れません。個人的な欲求や必要性から英会話を勉強する人が増えることは特に問題はないと思います。

しかし文部科学省のお役人の方々が同じようなレベルで国民に対して「英語が自由に話せたら・・・」と考えていらっしゃるようだと問題があります。

さて皆さんは夢を見るとき、何語の夢を見ていらっしゃるのでしょうか。眠っているときも脳は活動しているわけですが、このとき無意識に使っている言語こそがその人の「母語」であり、「思考言語」ということになります。頭の中で何か考えているとき、その内容が数学であれ、音楽であれ、外国語であつたにしても、すべてはこの思考言語を無意識のうちに使っているわけです。この思考言語はもちろん遺伝により受け継がれるものではありません。生まれてから何年かのうちに後天的に獲得されるものであることは明らかです。

「だから子供のうちに英語を聞かせれば話せるようになるだろう。」と考えられる親御さんもいらっしゃるようですが、最終的に思考言語はひとつしか獲得されないものだと思います。つまり思考言語が獲得されるべき時期に2つの言語が入ってきた場合、どちらの言語も中途半端なネットワークしか形成できず、どちらも活かそうと思えば思うほど、深みのある思考力の獲得を困難にするような気がします。

幼児期に獲得した思考言語は、本来小学校・中学校の時期にさらなる高度な思考を可能とするレベルに高められるはずですが、ところが最近の子供たちは日本語表現が「不自由な」まま学年ばかりあがってしまいます。何か経験したことの感想を求めても、「あれヤバイよ」と「ちげーよ」という貧困な単語でしか表現できないものには、緻密な論理からなる説明文も細やかな心情変化のある文学作品も単なるゴミでしかないでしょう。これ以上思考言語の獲得育成課程を混乱させる要因となる早期英語教育は避けるべきではないかと思います。

残念ながら私自身も夢も日本語で見ますから、思考言語は日本語です。英語も仕事上関わることになりますが、英語で自分自身の考えを的確に表現することは到底できません。それは単に私の語彙の少なさだけの問題ではなく、語のもつイメージや文化を知らないことによる限界なのです。逆に言えば外国の言語を習得することは、その国の文化・風習・価値観を学ぶことになるわけです。少なくとも文部科学省はその点をふまえた上で、この国の国民の進むべき方向を示して欲しいものです。